

歳出入構造の地域比較とシミュレーション

池島ゼミ、チームロク
堀岡明凜、玉腰開知、河津郁哉
垣内学、中村龍太

報告の概要

- ・観光20都市（※）を分析し、観光都市の持つ傾向性を調査

※（観光20都市：箱根町、軽井沢町、山中湖村、熱海市、那須町、草津町、笛吹市、高山市、伊東市、佐世保市、別府市、釧路市、函館市、伊豆市、富良野市、甲州市、山ノ内町、下呂市、萩市、川根本町）

- ・箱根の財政を分析し、箱根の持つ課題を調査
- ・軽井沢と比較し、何を改善していけばいいのかを調査

調査研究の成果

観光都市には以下の傾向性が見られた

- ・観光客数が多いと、歳入に占める固定資産税も多い
- ・歳入に占める個人市民税の割合が多いと、財政が健全
- ・観光客数が多いと、財政が不健全

箱根の個別分析より、個人市民税の低さと、衛生費・消防費の高さが財政上の課題であると結論付けた

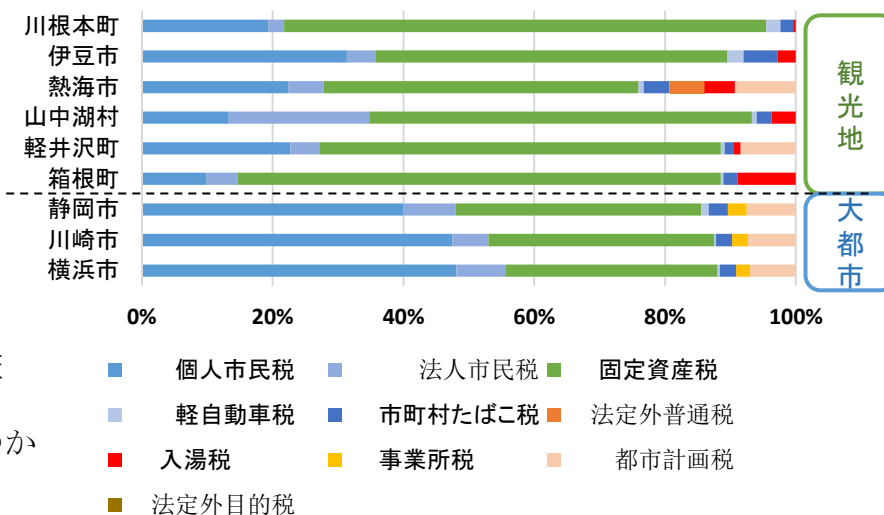
箱根町が軽井沢並みの住民所得、域内労働率、一人当たり歳出額であると仮定

⇒一人当たり歳出に対する一人当たり歳入は56%⇒72%の

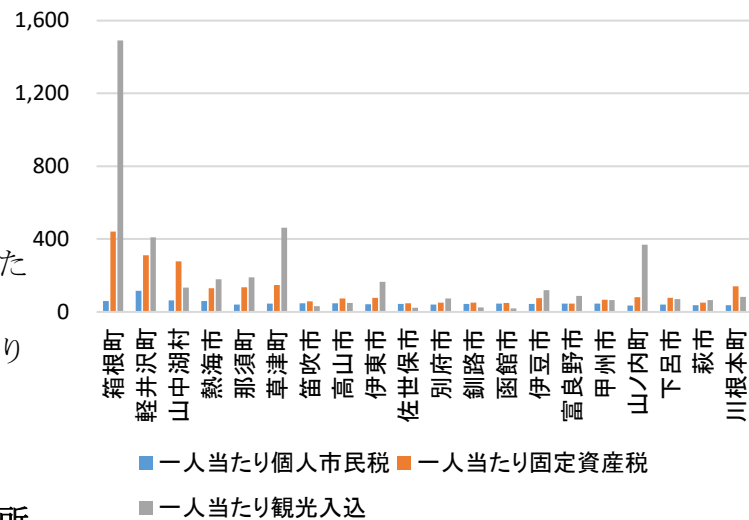
改善をし軽井沢（75%）と同レベルになる

しかし、歳出を減少させることは困難であるため、住民所得と域内労働率の向上が重要となる

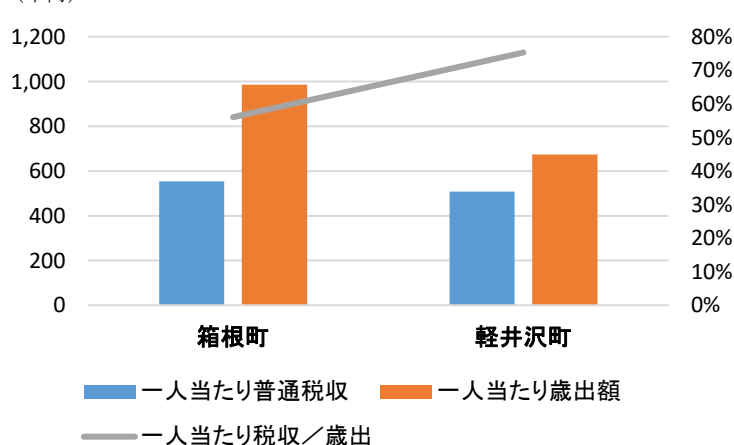
税目構成比一覧



(千円)



箱根町と軽井沢町の税収・歳出額比較



仮想箱根町と軽井沢町の税収・歳出額比較

